

大衆メディアの表象に見る夜道

The meaning of "yomichi from representations in popularmedia.

学籍番号 56820

氏 名 大橋 航 (Ohashi,Kou)

指導教員 大野 秀敏 教授

■目的と背景

本論の目的は夜道を題材に、「物理的な景観」ではなく、「無意識に記憶された景観」を捉えることである。

□「無意識に記憶された景観」としての夜道

夜道という言葉には、帰宅する道の風景という意味が含まれており、人と行為、時間と空間が、その周囲とつながりを持ちながら存在している事を示唆している。本論では夜道を私達が無意識のちに、どのように選択的に見ているかという事を捉えようとする。

□「無意識に記憶された景観」と「物理的な景観」
景観に関する学術研究の多くが、客観性を持った審美的価値から景観をコントロールしようという、技術論であるそれは、「物理的な景観」を捉えようとしている研究であるといえる。

しかし、景観は文化的総体であり、同様な空間であっても受け手や、文脈によって実に様々な解釈を受ける。私達が、自分の内面と結びつけながら、景観の中の一部のものを無意識のうちに選択しながら見ているからである。それは場の選択から、さらにその場にある情報の中からの選択と様々な次元において行われている。これが、本論で捉えようとする「無意識に記憶された景観」である。

□大衆メディアと「無意識に記憶された景観」とは相互規定的
大衆メディアとは、このような無意識の選択の記憶を流通可能な状態にしたものであるといえる。圧倒的多数を相手にする以上、その表現は既に共有している感覚に依拠するのだ。また、大衆メディアの中にあらわれるものが私達のその無意識の選択に影響を与えている。以上のような特徴より、本論では大衆メディアを用いる。

■漫画の表象に見る夜道

漫画の分析を通して「無意識に記憶された景観」としての夜道の概観を得た。

□夜道という事実性のみを伝えるコマ ストーリーや作品に、拠らず以下の4つに類型化可能であった。

家 - 立面型

夜は家に人が居るという事を、家の形態を抽象化する事で記号化している。

家 - 見上げ型

夜家に帰った時に立ち止まって家を見上げるという行為を抽象化して記号にしたもの。





家一近傍型

家型の範囲を、家の周囲にまで広げたもの。

道型

夜道の場所をつなぐという道性を記号化したもの。















夜道という事実性のみを伝える記号の型

家型			道型
家一立面型	家一見上げ型	家一近傍型	
			
家の記号	到着の記号	所在地の記号	連続の記号
「ここまで」が夜道			「これから」が夜道

□夜道という事実性と、雰囲気や感情を伝える記号
夜道が表象するものを下の表にまとめた。

模様 一定以上の大きさの円がランダムに浮いていると、それは、幸福感などポジティブな意味を表象し、逆に、線が画面を横切ると、ネガティブな意味を表象する。

アイコン コマの中に描かれる以下のようなアイコンについて分析した。

ネガティブさ 羞しさ 不気味さ悪い出来事の予兆 不安感、恐怖感 一方的な力関係、恐怖心 人の不在 不気味さ 寂しさ 不安さ 自問自答の場、鏡 憧れの対象を投影する場 夜らしさ 互いの無関心 匿名性 緊張感	模様 横切る線  ネガティブさ 羞しさ	遠景 うずまく空  不気味さ悪い出来事の予兆	道 エッジが曖昧  不安感、恐怖感	月 三日月  夜らしさ	人 目のみ見える  一方的な力関係、恐怖心 真黒  互いの無関心 匿名性	窓 黒い  人の不在 不気味さ 白い  人の存在 朗らかさ	街灯 連続していく  寂しさ 不安さ 発散する  緊張感 スポットライト  スポットライト
ランダムな円  ポジティブさ 幸福感、充実感		夜景  自問自答の場、鏡 星空  憧れの対象を投影する場 花火  華やかさ、特別さ		満月  円満さ、神秘性			

空 渦巻き、うごめくような空は、不気味さや悪い事の予兆を表象する。

遠景 夜景は、鏡のような存在で、自問自答の場であり、自己の内面を振り返る事を表象する。これに対して、星空は憧れの存在が投影され、希望や夢が表象される。

道 輪郭線が定まらない道は、先行きの見えなさからくる不安感を表象する。

・星空は、夜景と似ているが、他者が投影される。

月 三日月は、作品の中であまり変化しない。夜らしさを表象する。これに対して、満月は様々な表現をとり、神秘性や円満さを表象する。夜景や、星空が一人で見るものなのに対して、満月は2人で見上げる事が多いのも特徴である。

人 目だけが描かれた人は、相手が一方的に見ている事を指示し、恐怖感などを表象する。真黒な人は、正体が明らかでない事を指示し、互いへの無関心や匿名性を表象する。

窓 明るい窓は人の存在を指示し、幸福な場所を表象する。暗い窓は逆に人の不在を指示し、不気味さを表象する。

街灯 どこまでも、立ち並び連続するような街灯は、不安感を表象する。発散を強調するように描かれた街灯は先の見えなさや人、賑わいの不在指示し、緊張感を表象する。暗い中で、一箇所明るい場所をスポットライトのように照らし出すような街灯は部屋性を指示し安心感や、プライベートさを表象する。

■絵本の表象に見る夜道

絵本の分析を通して、色彩に着目したときに「無意識に記憶された景観」としての夜道を捉えた。

□空の表現 空の表現より、夜の表象のされ方を右上の図のように分類できる。

黒い空 それだけで、夜を表象する。

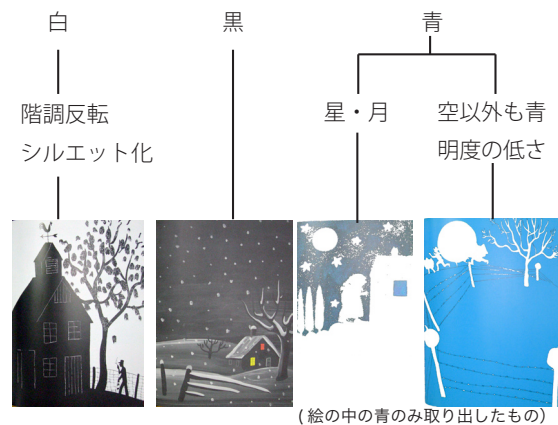
白い空 絵全体の階調を反転させることで、黒い空の反転であるという表現になり、夜を表象する。

青い空 青い空は青空との混乱を避けるために、他の二つに比べて様々な操作が行われる。

・青以外のものも青くしてしまい、かつ絵全体の明度を下げる。

・空に、夜のアイコンである星型や、三日月が描かれる

空の色から見た夜の表現の分類



□色の使われ方に見る、色が表象するもの

赤 場面によって様々な意味を持つ

- 暖かさの表象
- 注目すべきものの目印
- 華やかさの象徴として
- 火の表象
- クリスマスの表象

黄 光りの存在そのものを表象する。

緑 鮮やかな緑は昼のアイコンである為、昼のような賑やかさを表象するような特別な目的がある時以外は用いられない。

青 画面全体を青くする事で暗さを表象する。

■浮世絵の表象にみる夜道

浮世絵の分析を通して、時代の変遷と共にどのように「無意識に記憶された景観」としての夜道が変化したかを捉えた。

□平安時代の明るい夜

一遍上人絵伝をみると、当時大衆が夜に外に出て活動するような事はほとんど無かったようである。年中行事絵巻などをみると、祭りの夜が描かれている。それは暗く描かれておらず、夜を表象しているのは、人々の手に持たれている松明だけである。祭りの夜は非常に明るく特別なものとしてうつつのであろう。つまり、平安時代に描かれる夜は、昼との比較による暗い夜では無く、普段の真暗な夜との比較による明るい夜なのである。

□街灯の登場によって暗くなった夜

江戸の夜を知る為に、広重による浮世絵を分析した。ま



た、明治以降を知る為に、明治初期に登場した光線画を分析した。光線画というジャンルは、ガス灯の登場とともに確立したものである。光線画の登場そのものが、既に夜に対する感覚の変化を示している。以下のような2つの方法より分析を行った。

1. 絵の中の明暗に見る光りと闇への意識

絵の中の明暗に置き換え、明暗の扱い方と意識を分析した。

広重 夜も題材として好んで描かれるようになり、江戸時代に入ると夜も一般大衆の活



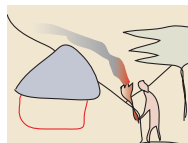
動範囲になったことがわかる。画面の大部分は明るく描かれ、画面の周辺部分や、建物の外壁などを黒く塗る事で夜を表現している。人工的な明りではなく、月夜などで照らし出された夜を描いていたわけである。建築を見ると、広重の絵では屋根がランドスケープと一体化するように薄明るく描かれている。

光線画 画面全体を黒く塗り、人工的な光線を発する部分のみが明るい部分とし



て描かれている。光線画の光りや夜の感覚は、漫画との比較から現代的なものに近いといえる。つまりガス灯の登場を契機によって、夜というものに対する視点が変わったのだ。万遍なく薄暗かった夜が、強烈な明りを発するガス灯の登場によって、それ以外の部分が真暗になったのだ。

それぞれの模式図



平安時代



広重一様

2. 画面全体の色調に見る夜の表象

絵全体の色調を見る為に、一つの絵の中の色を平均化し、その色相一彩度、色相一明度の関係を見た。広重の昼と夜絵、及び光線画を比較した。

広重の昼の絵は緑っぽいものが多いが、夜の絵にそれは見られず、



広重一様



光線画

シアン系の青さである。これに対して、光線画はさらに青い。明度において、広重の絵は昼と夜で差が無い。それと比較して光線画は明らかに明度が低い。

このことから、広重の絵にみられる鮮やかな緑色で描かれた植物は昼の明るさの表象である。

広重の絵は昼より夜のほうが使われる色が少なく、結果として青っぽくなっている。

言い換えると、広重の絵では明度によってではなく、使われる色の少なさで夜らしさを表象している。

また、ハイライトの比較で分かったことがここで再度確認された。

■住宅メーカーカタログの表象にみる夜道

住宅メーカーのカタログの分析を通して、願望としての側面の「無意識に記憶された景観」としての夜道を捉えた。

□夜道の写真の扱われ方の分析から

夜の住宅は、暗さの為に形態等の物理的特長を伝える能力は昼の住宅に劣る。その為、夜道が扱われたカタログは一般的ではない。しかし、用いられるときには、カタログの裏表紙や背表紙など、会社のイメージを伝えるために用いられている事が少なくない。このことから、夜の写真は、住宅の持つ意味的な価値の伝達という側面では、非常に優れていることがわかった。

□写真の内容に関する項目から

光色 消費者が住んでいる家は、昼白色であるが、カタログに登場する、住みたい家は、電球色の明かりである。それは暖かみを表象した家である。

また、室内の暖かみを強調する為に青っぽい雪景色の中に暖色の窓の明りが漏れるようなシーンが選択されている事もあった。

構図 夜の家とは、暖かく人を迎える場所であり、帰る場所である事が、玄関を中心とした構図の多さからわかった。

窓の透明度に見る写真の意味

・不透明な窓 住宅メーカーのカタログには、雨戸などによって閉じられた、もしくは室内が点灯していないような窓は登場しないことがわかった。

・半透明な窓 窓がレースのカーテン等によって、半透



明になっている事例が約半数あり、それは写真に写っている箇所が、全体、玄関とその周辺、窓とその周辺の事例の和とほぼ一致した。

窓を半透明にする事で、窓の明るさを強調し、その

住宅にポジティブな雰囲気醸し出しやすくしているのだ。

・透明な窓 窓が透明で内部が見えるような写真が残り半数であり、そのような写真は以下の2つのような構図であった。

1. 窓のみが写っている写真

舞台的な演出の為に夜の暗さと中の明るさの対比が用いられている。

2. 庭やテラスが中心に移されている写真

中の明かりが外に漏れることや、灯りが灯されることによって部屋の外も室内化し、室内と室外が等価で結びつきあるものである事を意味する為に用いられていた。



■歌謡曲の表象に見る夜道

小説などに比べると用いられる言葉が少ない歌謡曲表現がより記号的であると考えられる。夜道とそれに関連する言葉から「無意識に記憶された景観」としての夜道を捉えた。

□夜道 夜道は「暗い」く、一定時間耐えて乗り越えなければならないものの表象である。そして、それが一人で過ぐすときには、孤独感の表象であるが、誰かと共に居るときは、その人との一体感、特別感安心感の表象になる。また、夜道を歩くという行為と平行して、心理の変化が描かれることも多い。夜道はその人の思考や感情が進むのと同じような身体的スケールで変化するものの表象なのである。

□街灯 街灯は実在論的な存在でありその関係の中で自己の位置を定義する表象である。・点灯する街灯は、

夜の到来を表象し、消灯する街灯は朝の到来を表象するのである。それは、さながら現代の夜の太陽である。

・街灯の明りは、舞台の上のスポットライトのようにそこに照らされているものが注目すべきものであるという事を表象している。

・連続する街灯は、繋がりを見出していく事や、見出せるものを表象する。夜の川のようなものである。

・静けさの中の街灯は、人の不在を表象する。

・街灯の色は暖色にも、寒色にもなり、そこに曲の気分が表象されている。

□窓明かりに 窓明かりとは、思いを寄せているものの、近づく事のできない、触れる事のできない、そんな相手やその切ない関係を表象する。逆に・発光する面としてのみ扱われるような概念的な窓明かりは幸せな感覚を表象する。

複数の中のいくつかの、もしくは全ての窓明かりが点いたり消えたりする時、それはそこで営まれている人々の生活を表象する。

□夜景 夜景は固有の場所としてキャラクターを持った場所を表象する。また、ある特定の場所からの夜景は、その場所の特別さを表象する。また、遠い夜景とは、自分から遠ざかったいくものを表象する。

・夜景は、(一時的に) 所有可能な高価なモノを表象し、その所有している時間も高い価値を持つ。

・夜景はそれ特有の意味を持ったものとしてではなく、抽象的な暗闇の中に散らばる白い点の明りの意味でも用いられる。

□灯りの灯り方の表現の違い

街灯は灯り、照らす、窓あかりはつき、夜景は輝く。これは、上記したそれぞれの特徴を端的に示している。

■結び

夜道は大衆メディアにおいて、単なる物理的な時空間ではなく、様々な心的意味を伴う時空間である事がわかった。

物理的には同じ景観に対しても、それとの関わり方によってその意味は変わることが明らかになった。

夜道の意味や、関心は時代と共に変化してきたものである。その中でも、人工照明の登場は大きな影響を与えた。現在私達は夜道に散らばる人工照明の中に様々な意味を見出しているのだ。

現代の私達にとって、夜道はこの世界の中で濃密で多様な関心を払われている場なのである。

そして、その場を無意識の記憶の中で私達は共有しているのだ。